



竹爪 憲吾 議員



録画映像

## Q 町内の道路ネットワークの整備は

A 町 長

県道は、広島県道路整備計画2021。町道は、第6次総合計画に基づき、改良事業を推進中。

【Q 1】

県道矢野安浦線の熊野バイパス（ハローズ付近から）の進捗状況は。

【A 1】

道上川に架かる橋梁の出来庭側の橋台工事が完了した。呉地側の橋台工事に向か、仮設工事が進んでいる。

【Q 2】

町民会館前交差点の拡幅工事の完成は。

【A 2】

早期完成に向けて工事を推進すると伺っている。

【Q 3】

町道萩原線阿戸分かれ交差点からの今後の予定は。

【A 3】

今年度、用地境界立会等を実施する。来年度からは用地買収や移転交渉を実施する。

【Q 4】

役場前交差点から馬橋間は、児童の登下校時に危険だが、拡幅はできないか。

【A 4】

短期的に実施可能な狭隘区間の一部に離合箇所を整備予定である。



▲ 熊野バイパス（ハローズ付近）

## Q 終活支援の現状は

A 町 長

エンディングノートの活用や成年後見人制度の周知に取り組んでいる。

【Q 1】

高齢者世帯の相談件数や内容・対応は。

【A 1】

年間1,800件程度。内容としては、金銭管理、入院、施設への入所、死亡後の手続等をしてくれる親族がいないなどが多い。

相続等の法的な相談は、専門家に繋がるよう情報提供している。終活として、ACP（将来医療やケアが必要になった時、自分がどう生きたいかを、家族や医療・ケアチームと繰り返し話し合い、共有するプロセス）や成年後見人制度について説明している。

【Q 2】

終活支援は、どんな活動をしているのか。

【A 2】

ACP講座や講演会を実施。認知症や成年

後見制度等の講座、研修会で、自身の医療、ケアについての考えを家族、専門家と話し合い文書に残しておくことなど普及啓発を行っている。

【Q 3】

最近、墓じまいを考えている方からの相談もあり、今後、町として将来を見据え、現在の墓の管理状況の課題解決のためにも、公営の合同墓導入に向けて検討してもらえないか。

【A 3】

社会全般の動向や、地域のニーズ、法的要件を考慮しながら適切な対応をしたい。

財政負担の課題もあるので早急な実施は難しい。

## Q 大災害時の避難所の運営は

A 町 長

自治会、自主防災組織等と協力し運営していく。



録画映像



水原 耕一 議員

活できる環境を整備していく。

【Q 4】

受付業務が紙媒体で行われているが、2,830人の避難者を受け入れようと思えばパニックになるのでは、スマートフォンで受付処理を行う自治体があるが、導入できないか。

【A 4】

導入効果等、研究していく。

【Q 5】

停電時の対策と障がい者用の発電機の確保また、燃料の備蓄状況は。

【A 5】

太陽光発電、発電機等を配置している。障がい者用として確保はしていないが、優先的な利用を考えている。燃料は消防法により一定量以上の備蓄はできない。

【Q 1】

予測されている最大震度6強が発生した場合の避難所への避難者数は。

【A 1】

2,830人と想定している。

【Q 2】

避難所、福祉避難所の収容人数は。

【A 2】

避難所14箇所で6,780人（畳1畳に1人換算）福祉避難所は73人。

【Q 3】

福祉避難所が73人とは少なすぎる。対策が急務だと感じるが、いかがか。

【A 3】

設備が限られていることから十分な受け入れ体制を確保することが難しい。安心して生

## Q 移動手段に苦慮されている方への支援策は

A 町 長

利用しやすい公共交通体系を整える。

人を運ぶ）導入のバックアップはできないか。

【A 3】

運転手の高齢化で夜間に運行できる方が減っている。ライドシェアが一つの解決策と認識しているので事業者と協議しながら研究していく。

